



環境経営レポート

2020

(2020年1月～2020年12月)

2021年2月発行



株式会社 吉銘

目次

1 環境方針	03
2 事業活動の概要	04
3 環境目標・実績・評価	07
1. 環境目標と実績の推移(全社合計)	07
2. 全社合計	08
3. 本社・新住工場	09
4. 田原本工場	10
5. 五條工場	11
4 環境関連法規への違反、訴訟等の有無	12
5 代表者による全体評価と見直しの結果	13

1 環境方針

《 環境経営理念 》

『 大自然に感謝して、少しでも恩返しを 』

行動指針

1. 大自然から受けた恩恵である木材を人間の知恵をもって最大限に余すことなく有効に利用し
〈木を活かす企業〉として循環型の住みよい環境の実現を目指します。
2. 環境汚染を未然に防止すると共に、環境経営システムと環境パフォーマンスを自主的・継続的に改善できるように推進します。
 - 二酸化炭素排出量の削減
 - 廃棄物排出量の削減
 - 総排水量の削減
 - 化学物質の適正使用について維持管理
 - グリーン購入の推進
 - 環境に配慮した原材料の使用を推進
3. 環境教育・訓練・社内広報活動の実施により、全ての従業員に環境方針を周知徹底すると共に、環境保全に関する知識・認識の向上を図ります。
4. 環境関連法令と当社が参加した協定等を遵守し、必要に応じて環境管理レベルの向上を図ります。

この環境方針は、社外にも公開します。

制定日 2005年5月21日

改定日 2011年3月 1日

株式会社 吉銘
代表取締役社長

財 隆 三

2

事業活動の概要

1. 事業所名および代表者名

株式会社 吉銘 代表取締役社長 貝本 隆三

2. 所在地

本社・新住工場

奈良県吉野郡下市町大字新住1118

田原本工場

奈良県磯城郡田原本町大字味間436

五條工場

奈良県五條市島野町485番地

特販部

奈良県橿原市四分町2番地1

札幌支店

北海道札幌市北区新琴似8条2丁目1-11 上島ビル203号

福岡営業所

福岡県福岡市東区多ノ津1-18-15

3. 環境保全関係の責任者 および担当者連絡先

環境経営責任者 代表取締役社長 貝本 隆三

EA管理責任者 神谷 拓信

連絡先 TEL:0747-52-4066

FAX:0747-52-4797

E-mail:hinkan@yoshimei.co.jp

4. 事業規模(2020年度)

資本金	7200万円
年商	〈全社〉 146.5億円
主要製品生産量	〈3工場〉 27,559t <ul style="list-style-type: none">● 本社・新住工場:10,608t● 田原本工場:10,074t● 五條工場:6,877t
従業員	〈全社〉 140名(2020年12月現在) 〈サイト別〉 <ul style="list-style-type: none">● 本社・新住工場:40名● 田原本工場:27名● 五條工場:42名● その他部署:31名
床面積	<ul style="list-style-type: none">● 本社・新住:13,600m²● 田原本工場:5,811m²● 五條工場:8,132m²● その他部署:1,220m²

5. 事業内容

集成材の製造販売および住宅関連商品の販売

2

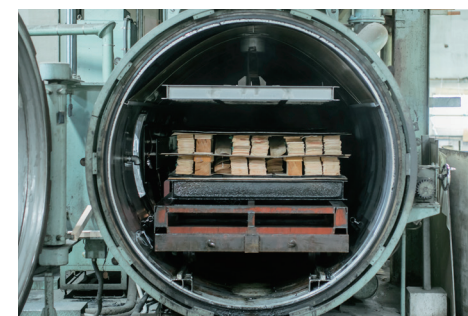
事業活動の概要

6. 沿革

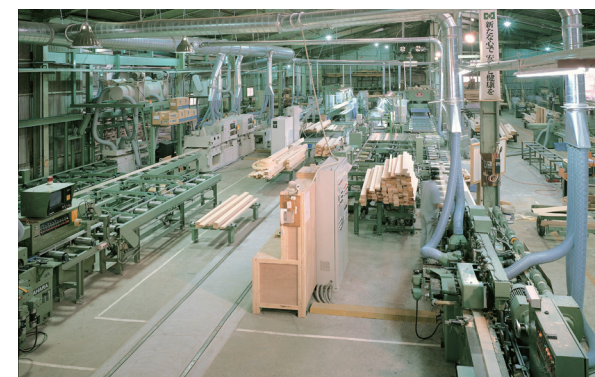
昭和25年	4月	貝本商店の創業(創業者 貝本 輝司)
	28年 4月	業界に先駆け集成材の製造販売開始(当社 元祖)
	40年 4月	吉野銘木製造販売(株)に法人組織化
	45年 1月	貝本木材工業(株)を新たに設立(株吉銘の前身)
	50年 6月	(株吉銘に社名変更)
	52年 7月	本社を橿原市に新築移転
		9月 (株吉銘福山を設立)
	55年 9月	山陰営業所の開設
	58年 8月	福岡営業所の開設
		9月 吉野郡大淀町に佐名伝工場を新設
	59年 10月	岡山営業所の開設
	61年 4月	吉野銘木製造販売(株)の集成材工場を製造部門として合併
	62年 3月	東京支店の開設
平成	2年 3月	資本金7200万円に増資
	5年 9月	全自動別注造作材プレカットライン完成
	6年 2月	五條工場新設
		9月 札幌営業所開設
	7年 2月	(株)東日本ウッドワークス中部設立
	9年 1月	桜井工場新設
	12年 6月	ISO9002認証取得
	14年 4月	田原本工場新設
	15年 3月	貝本木業(上海)有限公司設立
		4月 ISO9001取得
	16年 10月	本社を下市町新住に移転、製造部門と統合
	18年 3月	本社(管理本部・新住工場)でエコアクション21の認証を取得
	20年 3月	一部認証範囲を拡大(田原本工場および五條工場を追加)
	25年 4月	認証範囲を全社に拡大
	26年 9月	児玉工場を開設
	28年 4月	児玉工場を認証範囲に追加
	29年 4月	田原本工場にて木質ペレットの製造・販売を開始



設立当時



当時最先端の木材乾燥機

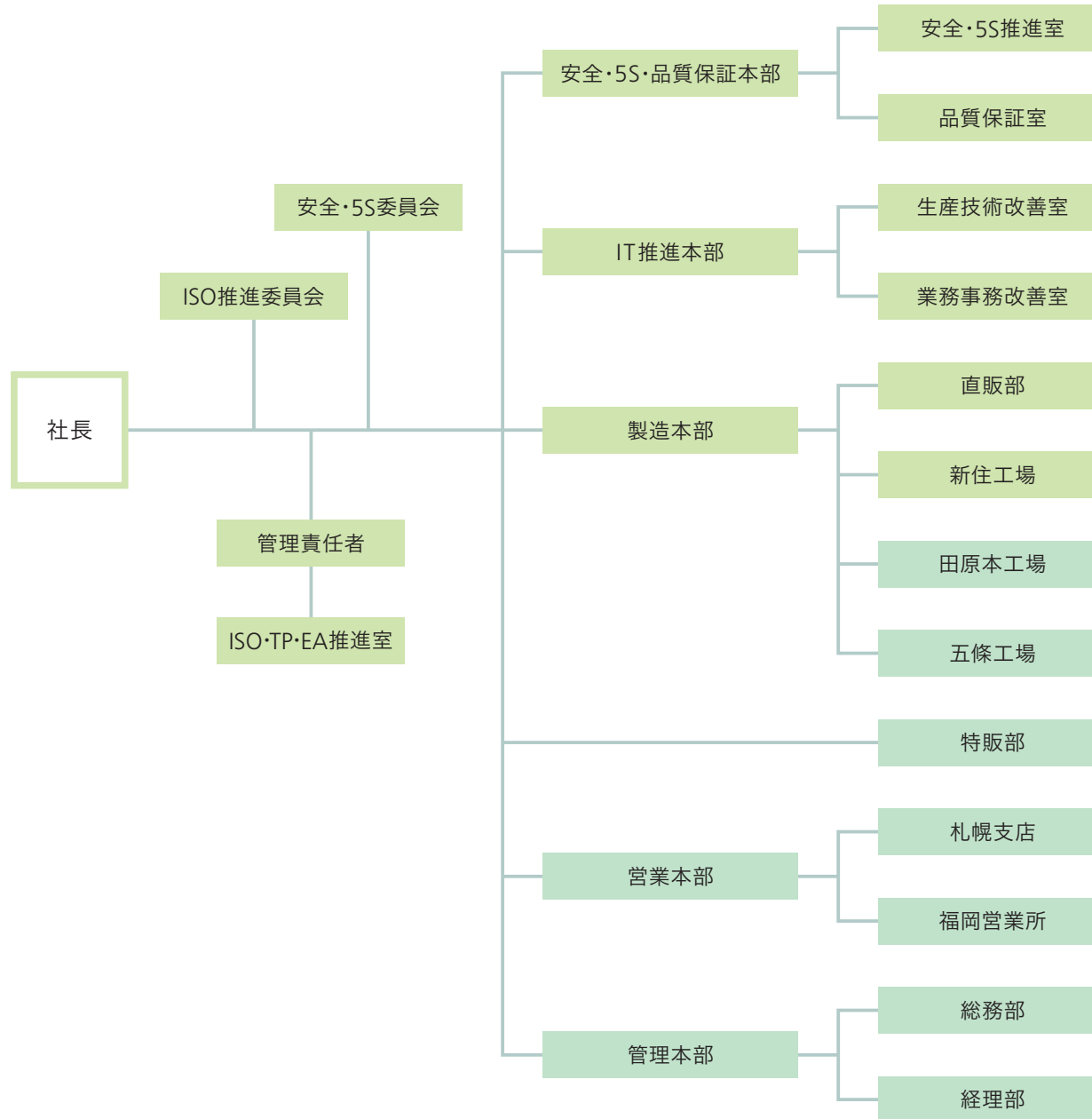


本社新住工場

2

事業活動の概要

7. 組織図



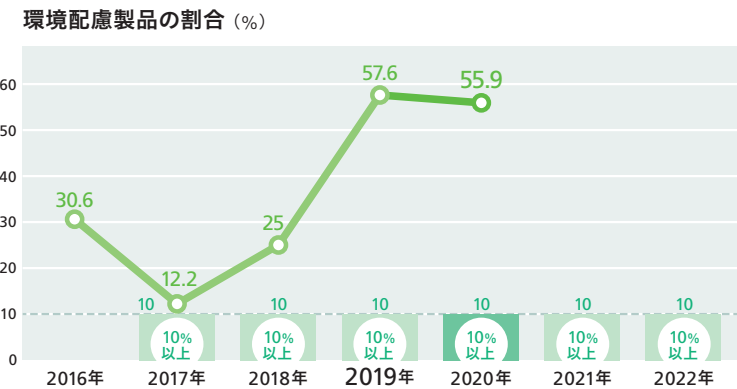
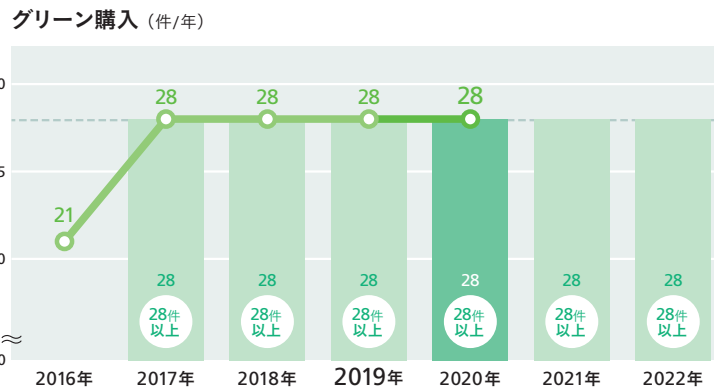
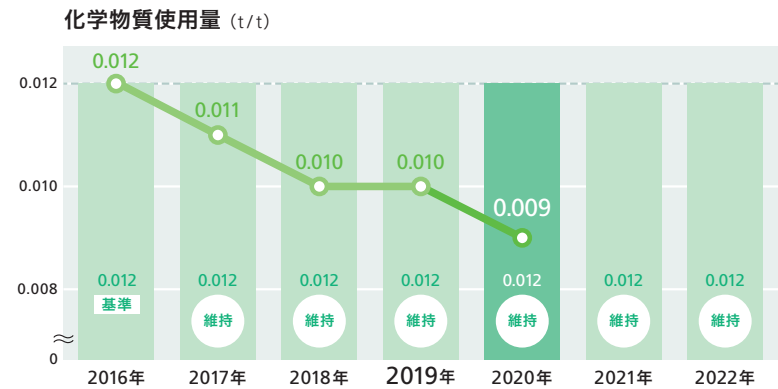
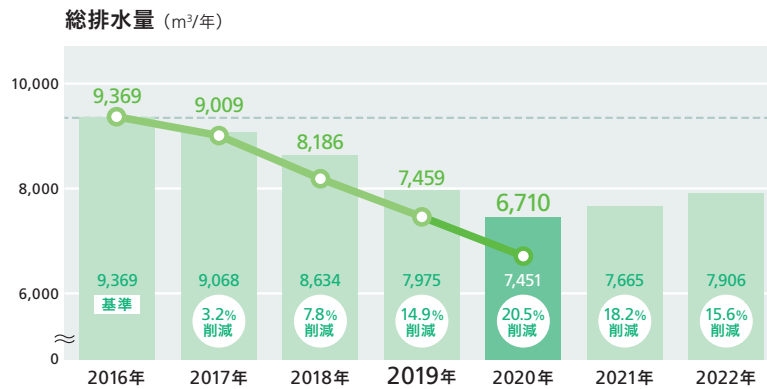
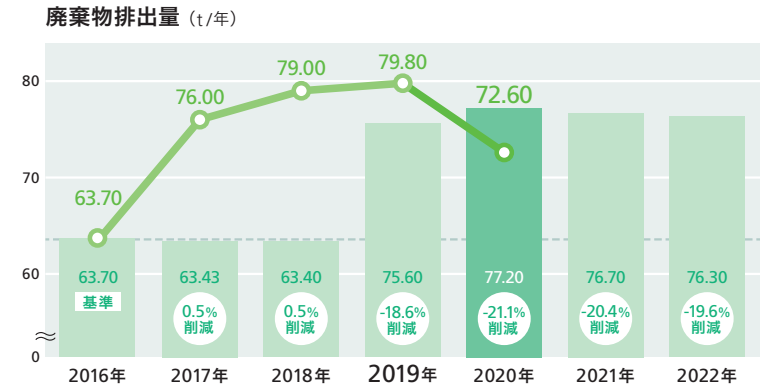
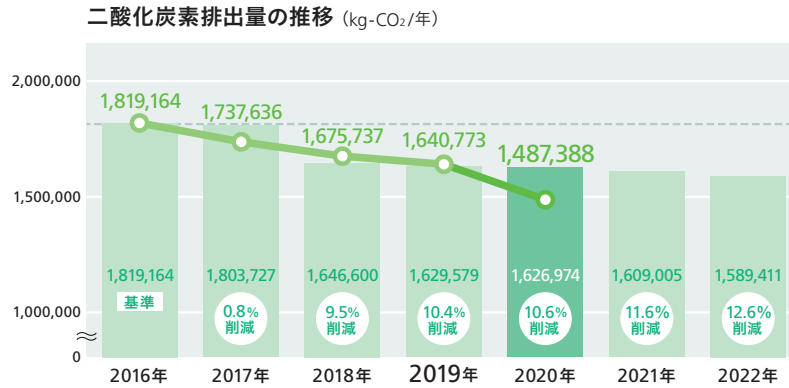
事業所	所在地	
本社	直販部	奈良県吉野郡下市町大字新住1118
	新住工場	
	品質保証室	
	ISO・TP・EA推進室	
	安全・5S推進室	
	生産技術改善室	
業務事務改善室		
田原工場	奈良県磯城郡田原本町大字味間436	
五條工場	奈良県五條市島野町485番地	
畝傍事務所	特販部	奈良県橿原市四分町2番地1 3F
	総務部	
	経理部	
札幌支店	北海道札幌市北区新琴似8条2丁目1-11 上島ビル 203号	
福岡営業所	福岡県福岡市東区多ノ津1-18-15	

3

環境目標・実績・評価

1. 環境目標と実績の推移(全社合計)

■ 目標
○ 実績



3

環境目標・実績・評価

2. 全社合計

活動の評価基準：◎ 総量、生産量あたり共に目標達成 ○ 総量、生産量あたりどちらかで目標達成 × 総量、生産量あたり共に目標未達

項目(単位)	内訳	目標				実績	評価	
		基準 2016年 (47期)	2020年 (51期)	2021年 (52期)	2022年 (53期)	2020年 (51期)		
二酸化炭素排出量 (kg-CO ₂ /年)	総量 (kg-CO ₂ /年)	1,819,164	1,626,974	1,609,005	1,589,411	1,487,388	目標達成	◎
	内訳							
	購入電力 (kg-CO ₂ /年)	1,612,546				1,268,996		
	化石燃料 (kg-CO ₂ /年)	206,618				218,392		
	基準に対する削減率 (%)	-	10.6% 削減	11.6% 削減	12.6% 削減	18.2%		
	生産量 (販売量) (t)	57,513				56,825		
	生産量あたり (kg-CO ₂ /年)	32				26.2		
基準に対する削減率 (%)	-				17.2%			
廃棄物排出量 (t/年)	総量 (t/年)	63.70	77.20	76.70	76.30	72.6	目標達成	◎
	基準に対する削減率 (%)	-				-14.0%		
	生産量 (販売量) (t)	57,513	-21.1% 削減	-20.4% 削減	-19.6% 削減	56,825		
	生産量あたり	0.0011				0.0013		
	基準に対する削減率 (%)	-				-15.4%		
総排水量 (m ³ /年)	総量 (m ³ /年)	9,369	7,451	7,665	7,906	6,710	目標達成	◎
	基準に対する削減率 (%)	-				28.4%		
	生産量 (販売量) (t)	57,513	20.5% 削減	18.2% 削減	15.6% 削減	56,825		
	生産量あたり (m ³ /t)	0.163				0.118		
	基準に対する削減率 (%)	-				27.5%		
化学物質使用量 (t/t)	総量 (t/年)	304	生産量あたりの接着剤の使用量を維持			245	目標達成	◎
	3工場生産量 (t)	25,100				27,559		
	生産量あたり使用量 (t/t)	0.012				0.009		
グリーン購入 (件/年)	件数 (件/年)	28	28件以上	28件以上	28件以上	28件	目標達成	◎
環境配慮製品の割合 (%)	化粧品製造作用集材用の認証材総量 (m ³ /年)	247	化粧品製造作用集材の原材料において 認証材の使用割合10%以上			88	目標達成	◎
	化粧品製造作用集材用の原材料総量 (m ³ /年)	805				158		
	認証材使用割合 (%)	30.6				55.9%		

※二酸化炭素排出量算定の排出係数：購入電力 2011年まで0.378 (kg-CO₂/kWh) 2012年から関西電力0.45 (kg-CO₂/kWh) 東京電力0.464 (kg-CO₂/kWh) 北海道電力0.485 (kg-CO₂/kWh) 九州電力0.525 (kg-CO₂/kWh)を使用する。



総括

全社取組において全ての項目において目標達成が出来ました。

廃棄物については本社・新住工場においてムービングハウスユニット新規生産開始により廃棄物排出量が増加しています。

3

環境目標・実績・評価

3. 本社・新住工場

活動の評価基準：◎総量、生産量あたり共に目標達成 ○総量、生産量あたりどちらかで目標達成 ×総量、生産量あたり共に目標未達

		PLAN	DO	CHECK					ACTION									
項目		計画	実行	目標	内訳(単位)	基準 2016年 (47期)	2020年 (51期)	削減率	理由	活動の 評価	改善							
二酸化炭素排出量削減	購入電力削減	▶生産性向上による 購入電力の削減を図る ※本社・新住工場では二酸化炭素 排出量における購入電力の 割合が高く、購入電力の削減が 最も大きな課題である	▶多品種少量生産に対応すべく 切替時間の短縮を図る	11.8%	購入電力(kWh)	1,306,747	990,122	24.2%	-	◎	▶現状活動の維持							
					二酸化炭素排出量(kg-CO ₂)	588,036	445,556	24.2%										
	生産量(t)	8,746	10,608		-													
	二酸化炭素排出量/生産量	67.2	42.0		37.5%													
化石燃料削減	▶「エコドライブ」を推進し、 アイドリングストップに努める	▶燃費の測定と運転手への 省エネ運転の励行	11.8%	二酸化炭素排出量(kg-CO ₂)	27,849	31,798	-14.2%	▶9月に木屑ボイラーを 廃止して、 灯油ボイラーでの運用を 開始しました	◎	▶製造体制を含め 灯油ボイラーの 効率的な利用を検討する								
				生産量(t)	8,746	10,608	-											
				二酸化炭素排出量/生産量	3.18	3.00	5.9%											
廃棄物排出量削減	分別による再資源化の推進	▶廃棄物の分別・再資源化 ・ダンボール ・鉄材 ・廃プラ ▶事務所関連廃棄物の削減 ・機密文書の再資源化	▶ダンボールは分別し、 古紙再生業者に引取実施 ▶鉄材は再生業者へ持込 ▶廃プラ圧縮し、リサイクル業者に 持ち込む ▶輸入梱包材の木パレットを 釘のない部分を切断し、再資源化 ▶製造工程で発生する 木材屑(プレナー屑等)は 自社内ボイラー燃料として熱回収 及び循環資源として再生利用 ▶事務書類をボイラーの燃料にする	27.9%	廃棄物 (t)	事務所(紙)	0	0	-	▶1月よりムービングハウスの 生産活動を開始しました ※事務所の一般廃棄物の排出は 非常に僅かの為算入していません	◎	▶ムービングハウス関連の 廃棄物の分別を強化して 廃棄物排出量の削減に 努める						
						工場(ダンボール)	0	0	-									
						工場(鉄)	0	0	-									
						廃プラ	0	0	-									
						工場関連(その他)	17.7	18.8	-6.2%									
					廃棄物計(t)	17.7	18.8	-6.2%										
					生産量(t)	8,746	10,608	-										
					廃棄物量/生産量(t)	0.0020	0.0018	12.4%										
					総排水量	▶ボイラーの給水装置の改善 ▶事務所節水の徹底	▶ボイラーの燃料の木屑を 再利用に回し、 余分な蒸気が発生させない ようにする	39.6%	総排水量(m ³)				2,999	1,476	50.8%	-	◎	▶現状活動の維持
									生産量(t)				8,746	10,608	-			
生産量あたり使用量(m ³ /t)	0.343	0.139	59.4%															
使用化学物質削減	▶接着剤の使用量を把握し、 生産量あたりの 接着剤の使用量を維持する	▶毎月の接着剤の購入量と 在庫を管理	生産量あたりの 接着剤の 使用量を 維持する	総量(t/年)	8	4	-	-	◎	▶現状活動の維持								
				生産量(t/年)	8,746	10,608	-											
				生産量あたり使用量(t/t)	0.001	0.0004	58.8%											
グリーン購入	▶環境配慮製品購入の推進	▶資材および物品購入時に 環境配慮製品の購入を検討する	5件	件数(件/年)	-	5件(以上)	-	-	◎	▶認証木材購入の 継続に努める ▶現状活動の維持								
環境配慮	▶化粧品製造作用集材材の 原材料において 認証材の使用割合 10%以上	▶化粧品製造作用集材材の 原材料発注に際し 認証材の購買を検討する	化粧品製造作用集材材の 原材料に おいて認証材 の使用割合 10%以上	化粧品製造作用集材材用の 認証材総量(t/年)	247	88	-	-	◎	▶認証木材購入の 継続に努める								
				化粧品製造作用集材材用の 原材料総量(t/年)	805	158	-											
				認証材使用割合(%)	30.7	55.7%	-											

3

環境目標・実績・評価

4. 田原本工場

活動の評価基準：◎総量、生産量あたり共に目標達成 ○総量、生産量あたりどちらかで目標達成 ×総量、生産量あたり共に目標未達

		PLAN	DO	CHECK				ACTION		
項目	計画	実行	目標	内訳(単位)	基準 2016年 (47期)	2020年 (51期)	削減率	理由	活動の 評価	改善
二酸化炭素排出量削減	購入電力削減	▶生産性向上による 購入電力の削減を図る ▶電灯の効率利用を図る ※田原本工場では二酸化炭素 排出量における購入電力の 割合が高く、購入電力の削減が 最も大きな課題である	-4.2%	購入電力(kWh)	1,157,548	1,099,956	5.0%	-	目標 達成 ◎	▶現状活動の維持
				二酸化炭素排出量(kg-CO ₂)	520,897	494,980	5.0%			
				生産量(t)	10,991	10,074	-			
				二酸化炭素排出量/生産量	47.4	49.1	-3.7%			
二酸化炭素排出量削減	化石燃料 使用量削減	▶「エコドライブ」を推進し、 アイドリングストップに努める ▶省エネ運転を励行する ▶電気式フォークリフトの 採用の検討	-4.2%	二酸化炭素排出量(kg-CO ₂)	26,159	24,721	5.5%	-	目標 達成 ◎	▶現状活動の維持
				生産量(t)	10,991	10,074	-			
				二酸化炭素排出量/生産量	2.38	2.45	-3.1%			
				二酸化炭素排出量(kg-CO ₂)	26,159	24,721	5.5%			
廃棄物排出量削減	分別による再資源化の推進	▶廃棄物の分別・再資源化 ・鉄材 ・廃プラ ▶事務所関連廃棄物の削減	-71.4%	木材(プレナー屑)	0	0	-	▶廃プラスチックが 再利用品として 販売できなくなり、 産業廃棄物となり 排出量が増加した ※事務所の一般廃棄物は 工場関連(その他)に 含まれています	目標 達成 ◎	▶現状活動の維持 ▶廃プラスチックの 再利用先を探す
				工場(鉄)	0	0	-			
				廃プラ	0	47.0	-43.3%			
				工場関連(その他)	32.8	47.0	-43.3%			
				廃棄物計(t)	32.8	47.0	-43.3%			
				生産量(t)	10,991	10,074	-			
				廃棄物量/生産量(t)	0.0030	0.0047	-56.4%			
総排水量削減	▶人工乾燥作業の生産性向上 ▶事務所節水の徹底	▶蒸気配管バルブの開閉を 夏・冬で見直し実施 ▶ボイラーの運転時間を 夏・冬で見直し実施 ▶人工乾燥に使用していた蒸気を ボイラーの給水タンクにもどす	-12.7%	総排水量(m ³)	2,265	2,380	-5.1%	-	目標 達成 ○	▶現状活動の維持
				生産量(t)	10,991	10,074	-			
				生産量あたり使用量(m ³ /t)	0.206	0.236	-14.6%			
使用化学物質削減	▶接着剤の使用量を把握し、 生産量あたりの 接着剤の使用量を維持する	▶毎月の接着剤の購入量と 在庫を管理	生産量あたりの 接着剤の 使用量を 維持する	総量(t/年)	249	193	-	-	目標 達成 ◎	▶現状活動の維持
				生産量(t/年)	10,991	10,074	-			
				生産量あたり使用量(t/t)	0.023	0.019	15.5%			
グリーン購入	▶環境配慮製品購入の推進	▶資材および物品購入時に 環境配慮製品の購入を検討する	5件	件数(件/年)	-	5件(以上)	-	-	目標 達成 ◎	▶現状活動の維持
環境配慮製品	▶化粧品製造作用集材の 原材料において 認証材の使用割合 10%以上	▶該当製品の製造なし	化粧品 製造作用集材 の原材料に おいて認証材 の使用割合 10%以上	化粧品製造作用集材用の 認証材総量(t/年)	0	0	-	-	なし	▶2020年度は 対象製品の生産は ありませんでした
				化粧品製造作用集材用の 原材料総量(t/年)	0	0	-			
				認証材使用割合(%)	-	-	-			

3

環境目標・実績・評価

5. 五條工場

活動の評価基準：◎総量、生産量あたり共に目標達成 ○総量、生産量あたりどちらかで目標達成 ×総量、生産量あたり共に目標未達

		PLAN	DO	CHECK				ACTION			
項目		計画	実行	目標	内訳(単位)	基準 2016年 (47期)	2020年 (51期)	削減率	理由	活動の 評価	改善
二酸化炭素排出量削減	購入電力削減	▶生産性向上による 購入電力の削減を図る	▶機械の生産性を上げ、 生産の効率化を図る ▶工場照明をLEDに交換 ▶電灯の節電を実施	-16.6%	購入電力(kWh)	656,127	702,388	-7.1%	▶5月に工場内照明の LED化工事が完了し、 効果がでていますが、 生産量の増加により 排出量が増加しました	目標 達成 ◎	▶各生産設備の 生産性を上げることで 生産量あたりの 二酸化炭素排出量を 削減する施策を継続する
					二酸化炭素排出量(kg-CO ₂)	295,257	316,075	-7.1%			
					生産量(t)	5,363	6,877	-			
					二酸化炭素排出量/生産量	55.1	46.0	16.5%			
	化石燃料 使用量削減	▶「エコドライブ」を推進し、 アイドリングストップに努める ▶省エネ運転を励行する ▶人工乾燥の効率化を図る	▶朝礼等での啓蒙 ▶フォークリフトに啓蒙表示	-16.6%	二酸化炭素排出量(kg-CO ₂)	111,276	132,405	-19.0%	▶受注増により、人工乾燥に 使用する灯油の量が増加した ▶田原本工場 (熱源木屑ボイラー)に 質乾燥を依頼は継続中	目標 達成 ○	▶天然乾燥の期間を確保する ことで木材の水分量を 少なくして人工乾燥時間を 短くし灯油の使用量を 削減する施策を継続する
					生産量(t)	5,363	6,877	-			
					二酸化炭素排出量/生産量	20.75	19.25	7.2%			
廃棄物排出量削減	分別による再資源化の推進 ▶廃棄物の分別・再資源化 ・鉄材 ・廃プラ ▶事務所関連廃棄物の削減	▶ダンボールは分別し、 古紙再生業者に引取実施 ▶鉄材は再生業者へ持込 ▶廃プラ圧縮し、リサイクル業者に 持ち込む ▶製造工程で発生する 木材屑(プレナー屑等)は 自社内ボイラー燃料として熱回収 及び循環資源として再生利用	-31.0%	廃棄物(t)	工場(鉄)	0	0	-	▶2019年の排出量に 2018年分の焼却灰が 含まれています ※事務所の一般廃棄物の排出は 非常に僅かの為算入していません	目標 達成 ◎	▶現状の活動を継続する
					廃プラ	0	6.1	-20.6%			
					工場関連(その他)	5.06	6.1	-20.6%			
				廃棄物計(t)		5.06	6.1	-20.6%			
				生産量(t)		5,363	6,877	-			
				廃棄物量/生産量(t)		0.0009	0.0009	6.0%			
総排水量 削減	▶人工乾燥作業の生産性向上 ▶事務所節水の徹底 ※五條工場ではラミナ(製品を 構成する板材)を乾燥するための ボイラーに水を使用している。	▶水道水使用量を毎月確認する ▶人工乾燥の前に天然乾燥を 十分することで ボイラー使用水を削減する ▶人工乾燥時の木屑焚きボイラーの 蒸気を効率運用する	17.5%	総排水量(m ³)	3,516	2,679	23.8%	▶生産量が増えた分の木屑を 資源引取に回すことが できたことで 水の使用量を維持できた	目標 達成 ◎	▶人工乾燥の前に 天然乾燥を十分することで ボイラーの稼働時間を 削減する ▶人工乾燥時の 木屑焚きボイラーの蒸気を 効率運用する	
				生産量(t)	5,363	6,877	-				
				生産量あたり使用量(m ³ /t)	0.656	0.390	40.6%				
使用量削減 化学物質	▶接着剤の使用量を把握し、 生産量あたりの 接着剤の使用量を維持する	▶毎月の接着剤の購入量と 在庫を管理	生産量あたりの 接着剤の 使用量を 維持する	総量(t/年)	41.44	47.53	-	-	目標 達成 ◎	▶現状の運用を維持する	
				生産量(t/年)	5,363	6,877	-				
				生産量あたり使用量(t/t)	0.008	0.007	10.6%				
購入 グリーン	▶環境配慮製品購入の推進	▶資材および物品購入時に 環境配慮製品の購入を検討する	5件	件数(件/年)	-	5件(以上)	-	-	目標 達成 ◎	▶現状活動の維持	
環境 配慮 製品	▶化粧ばり造作用集材材の 原材料において 認証材の使用割合 10%以上	▶該当製品の製造なし	化粧ばり 造作用集材材 の原材料に おいて認証材 の使用割合 10%以上	化粧ばり造作用集材材用の 認証材総量(t/年)	0	0	-	-	なし	▶2020年度は 対象製品の生産は ありませんでした	
				化粧ばり造作用集材材用の 原材料総量(t/年)	0	0	-				
				認証材使用割合(%)	-	-	-				

4

環境関連法規への違反、訴訟等の有無

当社に関連する環境関連法規と遵守状況は次の通りです

環境関連法	主要な設備等	遵守状況		
		本社・新住工場	田原本工場	五條工場
大気汚染防止法	ボイラー	○	○	○
騒音規制法	木材加工機 コンプレッサー	○	○	○
振動規制法	コンプレッサー	○	○	○
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	産業廃棄物	○	○	○
消防法	木材加工品 木屑	○	○	○
化学物質排出把握管理促進法 (PRTR法)	第1種指定化学物質	○	○	○
フロン排出抑制法	業務用エアコン	○	○	○
NOx・PM法	トラック	○	-	-

○: 遵守
 △: 申請中
 - : 非該当
 ×: 未遵守



総括


全事業所において過去3年間、関係当局より違反の指摘はありません。

5 代表者による全体評価と見直しの結果

当社は緑豊かな地で創業して以来木材に携わり、
大自然の恩恵を受けて成長してまいりました。
行動指針の通り、大自然から受けた恩恵である木材を
人間の知恵をもって最大限に余すことなく有効に利用することを
常に心掛けて活動しています。

今期の取組につきましては、
二酸化炭素排出量、廃棄物排出量、総排水量全てにおいて
全社目標達成しました。
来期も環境目標を達成するよう、引き続き現体制にて活動致します。

これからも従業員一人一人の環境への意識向上はもとより、
生産性向上による資源の省力化・エネルギーの効率利用を目指しながら、
持続可能な社会実現に貢献できるよう
引き続き企業活動に邁進して参ります。

 次回の環境レポートは2022年3月の予定です。

2021年2月3日
代表取締役社長

財 隆 三

